

国語科学習指導案

日 時	令和5年 12月8日(金) 第5校時 13:35～14:20
学校名	墨田区立第一寺島小学校
対 象	第1学年1組 31名
会 場	2階 1年1組 教室
授業者	主任教諭 升水 美里

令和5年度研究主題
「学びに向かう力, 人間性等」を育む授業づくり
 ～学びの実感が得られる授業～

1 単元名 つたえたいことをおもい出してかこう
 「おもい出のアルバム」(教育出版 1年下)

2 単元の目標

- ◎ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。
〔知識及び技能〕(1)ウ
- ◎ 語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- ◎ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)オ
- ◎ 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしていや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

経験したことや見たことを思い出し、内容のまとまりが分かるように文章を書く。
 (関連：身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。B(2)ア)

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
① 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ	① 「書くこと」において、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ② 「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(B(1)オ)	① 積極的に文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもってよいところを伝え合おうとしている。

5 指導観

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）、国語〔第 1 学年及び第 2 学年〕
内容〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くこと(1)

「ウ 語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること」及び「オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること」

を受けて設定した。

本単元のねらいは、「B 書くこと」の既習事項を生かして、経験したできごと（思い出）について、内容のまとまりが分かるように文章を書くことである。入学してからの学校生活を振り返りながら題材を決め、自分がしたことや見聞きしたことについて、順序やまとまりを意識した文章を書けるようにする。

(2) 児童観

入学して初めての「書くこと」の単元となる「せんせい、あのね」では、知らせたいことを簡単な文章で書く学習をした。家での出来事や初めてのプールなど、伝えたい題材を自分で考え、したことや気持ちを思い出しながら文を書くことができた。「よくみてかこう」では、生活科の学習で育てているあさがおについて記録する文章を書いた。「見たこと」に加え、「さわった感じ」や「思ったこと」についても書くことを教科書の文例を読みながら学習し、自身の文章に生かすことができた。

「知らせたいことをかこう」では、生活科のシャボン玉遊びについて、「えにつきをかこう」では、水鉄砲で遊んだことについて、したことや感じたことを思い出しながら文章を書く学習をした。学校生活での共通体験を題材にしたことで、書くことが思い浮かばない児童に教員が助言をしたり、詳しく書けている児童の文を提示したりすることができ、文を書くことを楽しむ様子が見られた。

本学級は書くことへの抵抗がある児童が少なく、観察や作文などの学習活動を楽しむことができる児童が多い。一方で、短い文章で終わらせてしまう児童や、伝えたいことがまとまらず、教師や支援員が聞き取りながらでない文章が書けない児童もいる。そこで、学習のめあてや友達との交流の視点を明確にすることで、自分の文章をよさに気付き、できるようになったという学びの実感を味わえるようにする。

(3) 教材観

教科書では、経験したことを具体的に思い出して情報として集めるために、写真などを見ながら、どのようなメモを書くか、書いたメモは同じ観点でまとまることなどが確認できる。メモは、「見つけたよ、いきもののひみつ」で学習したことも参考し、できるだけ短い文で書くことをおさえる。教科書の文例やモデル文を用いて、「ここがだいじ」とあわせて記述する際に気を付ける点を確認する。また、「中」の部分に「したこと」「見たこと」「聞いたこと」などを時間の順序や事柄の順序を考えて書くことのほか、会話文を用いた書き方についても参照し、経験したことを分かりやすく伝える文章へのイメージをもつことができるようにする。

6 年間指導計画における位置付け（第1学年 書くこと）

時期	単元名・「教材名」	重点指導事項
6月	せんせい、あのね 「せんせい、あのね」	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
6月	よくみてかこう 「よくみてかこう」	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
7月	しらせたいことをかこう 「しらせたいことをかこう」	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
7月	えにつきをかこう 「えにつき」	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
9月	たのしかったことをかこう 「たのしかったことをかこう」	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
11月	かきたいことをよくおもいだしてかこう 「見つけたよ、いきもののひみつ」	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
11月	「やくわり」と「つくり」のつながり をかながえてかこう 『『のりものカード』でしらせよう』	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
12月	つたえたいことをおもい出してかこう (本単元) 「おもい出のアルバム」	ウ 語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
1月	しゃしんからおはなしをつくろう 「きこえてきたよ、こんなことば」	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
2月	手がみで気持ちをつたえよう 「こころぼかぼか手がみをかこう」	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。

7 単元の指導計画と評価計画(全9時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)
第1時	学習への見通しをもつことができる。	1 これまでの学校生活を振り返り、心に残ったできごと(思い出)について話し合う。 2 教科書の文例を読む。 3 今までの「書くこと」の学習を振り返り、学習計画を立てる。	
[単元のめあて] つたえたいことをおもい出してかこう。			
第2時	学校生活の中から、書くことの題材を決めることができる。	1 題材について思い出したことを話し合う。 2 題材を1つに決める。 3 書いたことを誰に伝えたいか考える。	
第3時 第4時	題材についての情報を集めることができる。	1 メモの例と文例を基に、書き方を確認する。 2 写真や作品などを見ながら、思い出したことをメモに書き出す。	イ - ① ・「書くこと」において、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ) (記述)
第5時	メモに書いて集めた情報を観点ごとにまとめ、事柄の順序に気を付けながら、文章の構成を考えることができる。	1 前時までまでに書いたメモを、順序に気を付けて並べる。 2 友達と、書こうとする文章の構成表を見せ合う。 3 加えたいことがあれば、メモを増やし、構成表を完成させる。	ア - ① ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ) (記述)
第6時	メモをもとに、内容のまとまりが分かるように文章を書くことができる。	1 構成表をもとに文章を記述する。 2 書き終わったら、読み返し、順序を確かめる。	
第7時 第8時	書いた文章を読み返し、字の間違いや句読点の打ち方などを確かめることができる。	1 文例を使い、文章を読み返すポイントについて確かめる。 2 ポイントに沿って、書いた文章を読み返したり、友達と読み合ったりする。 3 推敲した文章を基に、清書する。	
第9時 (本時)	書いた文章を読み合い、感想を伝えたり、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けたりすることができる。	1 文例を使い、感想の伝え方を話し合う。 2 友達と読み合い、感想をカードに書いて伝え合う。 3 学習を振り返り、自分の文章のよいところを見付ける。	イ - ② ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。 (B(1)オ) (発言、記述) ウ - ① ・積極的に文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもってよいところを伝え合おうとしている。(発言、記述)

8 研究主題との関連

(1) 分科会のテーマ

目指す児童像：学びを楽しむ児童

目指す児童の姿

- ・できたこと、分かったことを自覚している。
- ・見通しをもって学習に取り組んでいる。
- ・互いのよさに気付いている。

(2) 主題に迫る手だて

手だて① 自分事として取り組むための「問題・課題づくり」

- ・既習事項からめあてをつくる。
- ・振り返りから出た言葉を基に次時のめあてを作成することで、学習への意欲付けをさせる。
- ・活動の途中でめあてを再確認することで、本時の学習のゴールを意識付けさせる。

手だて② 見通しをもつための「学習計画の提示」

- ・教師モデルを提示することで、単元のゴールの見通しをもたせる。
- ・学習計画を提示し、共有することで、児童が活動の見通しをもてるようにする。
- ・教師モデルの中に、児童に身に付けさせたい表現方法を取り入れることで、どのような文章が書けるようになるとよいかイメージをもたせやすくする。

手だて③ じっくり取り組むための「時間」

- ・じっくり取り組む時間の提供。
- ・内容や書き方の表現方法を知る時間を確保することで、まとまりのある文章を書かせる。
- ・構成表を基に文章を記述し、読み返しの順序を確かめることで、じっくり取り組むための時間を確保させる。

手だて④ 自分の学びを振り返る、友達の良いところを取り込むための「ツール」

- ・振り返りの視点を具体的に提示する
「できたこと」、「分かったこと」、「友達の良かったところ」、「次がんばりたいこと」
- ・児童の発達段階を考慮し、記号による自己評価（◎：よくできた ○：できた △：もう少し）をすることで、自己を振り返り、次の課題を設定できるようにする。
- ・文例から見付けた書き方のポイントや文章の構成を教室内に掲示しておくことで、いつでも確認したり、表現方法に迷ったときにヒントを見たりできる環境を作る。

9 本時(全9時間中の第9時)

(1) 本時の目標

書いた文章を読み合い、感想を伝えあったり、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けたりすることができる。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 ・ 学習活動	指導上の留意点 配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 3分	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。 2 本時のめあてを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">文しょうをよみあって、よいところを見つれたり、つたえたりしよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 単元のめあて、伝えたい相手、伝えたい内容を想起させる。 児童の言葉を基に、めあてを設定する。 	
展開 35分	3 文例を使い、感想の伝え方を話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[内容に着目した例]</p> <ul style="list-style-type: none"> あきらめないところがすごいと思いました。 逆上がりができてよかったですね。 <p>[表現に着目した例]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「手にまめができるぐらい」という言葉から、がんばったことが伝わってきました。 思ったことが最後に書いてあることで、気持ちがよく分かりました。 </div> 4 文章を読み合い、感想をカードに書いて伝え合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>交流の手順</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 文章を読み合う。 ② カードに感想を書く。 ③ 書いた内容を読み上げて相手に渡す。 </div> 5 感想カードを全体で伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> 感想カードを提示することで、交流のイメージがもてるようにする。 児童の発言を整理し、内容と表現に着目した感想に分類する。 内容・表現の両方の感想が出るようにする。表現に着目した感想が出ない場合は、「はるたさんが、がんばったことが分かる文はどこですか。」と補助発問をする。 交流の手順を提示する。 早く終わった児童は、書いた文章を読み返すようにする。 感想を書くことが難しい児童には、文章を書くときにまねたいところを見付けるように支援する。 伝え合った感想カードを全体で共有することで、友達のように気付かせる。 	イ - ② <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている (B(1)オ) (発言、記述) ウ - ① <ul style="list-style-type: none"> 積極的に文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもってよいところを伝え合おうとしている。 (発言、記述)
まとめ 7分	6 学習を振り返り、自分の文章のよいところを見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> めあてを再確認し、本時の学習を振り返る。 振り返りと感想カードを、全体で共有し、自分の文章のよいところに気付くようにする。 	

(3) 板書計画

おもい出のアルバム

めあて 文しょうをよみあつて、よいところを見つれたり、つたえたりしよう。

◎ないよう

- ・あきらめないところがすごいと思ひました。
- ・さか上がりができてよかつたですね。

◎ひょうげん

- ・「手にまめができるぐらい」ということばから、がんばつたことがつたわかりました。
- ・おもつたことがさいごにかいてあります。

◇こうりゆうのしかた

- ①ともだちの文しょうをよむ。
- ②かんそうカードをかく。
- ③かんそうカードをともだちにわたす。
(かいたないようをよみながら。)

★かんそうカード

()	()	()	()
()	()	()	()
()	()	()	()
()	()	()	()

()	()	()	()
()	()	()	()
()	()	()	()
()	()	()	()

★見つけたよいところ